

「縁・えにし」のよろこび

～永代経法要～（4月19・20日）

気温も上がり暑さも感じましたが、本堂が2階のため心地よい風が入り、心も身体も“ゆったり”とした時間をいただきました。ご法話の時間も2席に戻し、ゆっくりとお聴聞できました。



ご講師 福永師

～仏教婦人会法座・親鸞聖人降誕会～（5月12日）

春に開座していた仏教婦人会法座を、昨年より5月の開座としております。5月21日が親鸞聖人のご誕生の日です。降誕会というご法座として、今年もお勤めしました。



ご講師 渡辺師

～境内・納骨堂清掃奉仕活動～

お盆を迎える前に、お寺の総代・仏教壮年会と仏教婦人会役員の皆さまに、境内草取りと納骨堂掃除していただきました。暑い中での奉仕活動、誠に有難うございました。



～お盆法座～（8月13・14・15日）

13・14日（9時、17時）、15日（9時）とお盆法座を開座しました。参拝者の皆さまには、過去帳等をお持ちいただき、ご尊前にご安置してお勤めをしています。1年間を通して、お盆の時期が一番多くの参拝をいただきます。ご先祖様を偲ぶことにより、私どもが今ここに生かされてあることに感謝させていただくのです。



～秋季・彼岸会～（9月20日）

彼岸入りの日、多くの参拝者と共にお勤めさせていただきました。亡き方々は、彼岸（西方浄土）より、仏となって私たちをお導きくださっています。別れない世界がお念仏の世界です。



ご講師 宗師

～ご案内～

『親鸞聖人・報恩講』(762回忌)のご案内 11月14・15日(昼席・13時30分～)
ご講師:内田正祥 師(三重県四日市市・正覚寺) どうぞお参りくださいませ

阿弥陀さまからのお手紙

『お浄土をいただいで生きる』

内田 正祥 (三重県・正覚寺)

車のナビ！正式には何と何というのでしょうか？カーナビゲーションでしょうか。実に便利な物ができましたね。モニター画面に地図が出ていて、目的地を設定すると誘導してくれます。「前方五百メートル先、右折です」などと声で案内してくれますし、おおよその到着時間も知らせしてくれます。だから初めての場所でも安心して目的地に向かうことができます。

ある日、車でかけて、ふと気がつく、ナビが案内をしてくれませんか。なぜなのでしょう、よくよく画面を見たら…目的地を設定するのを忘れていました。案内してくれないのは当たり前ですね。まず目的地を設定しなければ始まりません。

その時、思ったのです。私の“いのち”の目的地が、もし設定されてなかったら…。私はどこに向かえばいいのか迷ってしまいます。考えてみれば私には、私の“いのち”の目的地をつくることはできません。だからこそ、阿弥陀さまはすでにお浄土をご用意してくださっていたのです。

阿弥陀さまが私に「お浄土に生れたいと願いなさいよ」とお喚(よ)びかけてくださるのは、「あなたの“いのち”の目的地を『お浄土』と設定しなさいよ」という意味だったのです。死に去っていく人生ではなく、仏さまに生れて行く人生を生きてこそ、生きることに意味が見いだされ、迷うことにない頼もしい人生が歩めるのです。

私も十年程前からナビのお世話になっっているのですが、ナビのなかった頃は、何度も地図帳を開いて確認しながら、大丈夫かな？間違っていないかな？と少し不安を感じながら目的地に向かっていました。

そんな頃のお話です。布教にかがうお寺のご住職から送っていただいた地図を頼りに、お寺のある町までは、何とかたどり着きました。でも、どうしてもお寺が見つかりません。こうなったら、誰かに尋ねるしかないと思っていた時、自転車に乗った高校生くらいの女性が通りかかりました。「すみません。○寺さんまで行きたいのですが、道を教えてもらえませんか？」と言うと、「知りません！」と素っ気ない返事でした。

なるほど、これはお寺を知っていきそうな人に尋ねなきやと思っていると、今度は昔懐かしい籐で編んだ乳母車を押ししたおばあさんが通りかかりました。「すみません。○寺さんまで行きたいのですが…」と声をかけると、「○寺さん。うん、今から私が行くところ、ついておいで！」とニコニコしながらのお返事でした。

「ありがとうございます」と喜んでお願いしたのですが、後で少し困りました。おばあさんは、とてもゆつくり乳母車を押しながら歩いて行かれるのです。私は自動車…、何度も車を止めて走り、止めては走り、おばあさんの後ろをついて行きました。やがて、おばあさんは道幅一メートルほどの狭い路地に入っていきます。そして後を振り向いて、「こっち、こっち」と手招きされるのですが…。

「私は自動車に乗ってるんだから…その道はむりやなあり」と心の中でつぶやいていると、おばあさんも気がついたようで、笑いながら「そこを右に行つて、すぐを左へ、そしたら、お寺の門の前だから」と教えてくださいました。無事にお寺に到着した私は、近道の路地を抜けてきたおばあさんと境内で笑顔の再会をして、お礼を言いました。

目的地に行きたいけれど、どうやって行けばいいのかわからなくなった時、そんな時は、よく知ってる

方に尋ねたらいいんですね。その方が「ついておいで！」と、一緒にそこまで行ってくださったら安心ですよ。

「お浄土に往きたいのですが、どうやって往けばいいのでしょうか」と親鸞聖人にお尋ねすると、「尊く素晴らしい心を発されましたね！ ようこそ聞いてくださいました。私もあなたと一緒に歩んで往きましょう」とおっしゃってくださるでしょう。阿弥陀さまのお浄土のことを一番よく知っておられる親鸞さまが、「ついていらつしやい」と、お浄土への道を共に歩んでくださるのです。その一歩一歩がそのまま、阿弥陀さまが私をお浄土へとお運びくださる、大きな大きなお救いの中での歩みなのですね。

たくさん先輩方やご縁のある方々が、お浄土で待つていてくださいます。そして笑顔で迎えてくださいます。再会を楽しみに、私は今を、この人生を精いっぱい生きて往きたいと思えます。

「南無阿弥陀仏」とは「あなたに、お浄土へ往きたいという心を発させたい。そして必ずあなたを仏さまに生れさせたい。どうかまかせてください」という阿弥陀さまからの誓いと願いのお喚び声でありました。そして、「ありがとうございます。おまかせします」という私からの喜びのお返事でありました。

お念仏を聞きつつ、お念仏を申しつつ、親鸞さまと共に、あなたと共に
—お浄土をいただいでみんな生きて往きましょう—



※内田師は、今度の報恩講のご講師です